



ファッションや会話を楽しみながら優雅にプレー

第5回

阿川佐和子トロフィー 軽井沢 Society of Happy Hickory Golfers

最近増えてきているというヒッコリーゴルフの愛好者達。エッセイストの阿川佐和子さんもそのうちの一人。そんなゴルファーが集まる大会で、ゴルフの原点ともいべきスタイルに触れてみた。

歴史に想いを馳せながら仲間とのラウンドを満喫する

スコアや飛距離を競うモダンゴルフとは違う喜び……。それを教えてくれるのがヒッコリーゴルフだ。木製シャフトのクラブに糸巻きボールという古き良き時代の道具を使い、オシャレな服装に身を包みラウンドを楽しむ。

そんなヒッコリーゴルフのビッグイベント「第5回阿川佐和子トロフィー 軽井沢 Society of Happy Hickory Golfers」が、軽井沢プリンスホテルゴルフコースにて開催



された。この大会は、参加者達がプレーだけでなくファッションや会場の雰囲気を楽しめるのが特長。ヒッコリーのクラブセットをレンタルできるため初心者でも参加できる。主催者のアレックス・ブルースさんは「今後も大人が楽しめる社交的な大会にしていきます。ヒッコリーゴルフはモダンゴルフの練習にもなりますし、多くの人に魅力を伝えたいです」と語る。

作家でエッセイストの阿川佐和子さんも愛好者としてプレー。ラウンド後には英国スタイルの軽食を楽しみながら仲間との親睦を深めていた。



バグパイプの演奏なども行われ、会場を大いに盛り上げていた。阿川さんが一緒にダンスする一幕も



スタート前のオリエンテーションでクラブの使用方法などを教えてくれるので、初心者でも安心してプレーできる

▶スコットランドの紅茶やスコッチウイスキー、さらに手作りスコーン、ビスケットなどが味わえるのも魅力



阿川さんが考えるヒッコリーゴルフの面白さとは？

プレーしてみると、ゴルフ発祥の原点の喜びを体感できますね。それこそ、羊飼いがあつた時にボールをコンと打ってみたら、「楽しいかも」と思ったみたいな……。実際に打ってみると、ヒッコリークラブの打感はずいぶんいいです。参加している方々のファッションがオシャレで、特にオジサマで素敵なお人が多いのもヒッコリーゴルフならではですね。



当日は会場にヒッコリークラブも展示！



「ハリー・バードン」のウッズの復刻版。オリジナルは、セント・アンドリュースのブリティッシュゴルフ美術館に展示されている

1920年代のジョージ・ニコル「GEN」バターの復刻版。細部までオリジナルに忠実に再現されている

一般的なアイアンとは形状が明らかに違う「ラットアイアン」(上)は、わだちからの救済専用クラブだ

ドライバーからバターまで、木製のシャフトで仕上げられたヒッコリークラブが展示され、来場者の目を引いていた。なかでも19世紀初期に使用されていた「ラットアイアン」からは、当時のゴルフ事情が窺い知れる。この時代のゴルファーは他競技との共有地でプレーしており、馬車のわだちなどにボールがハマることも多かった。丸いヘッドは、そこから出すためにデザインされたもので、トラブル回避クラブの原点がここにある。現在のヒッコリークラブは、セント・アンドリュースにあるセント・アンドリュース・ゴルフ・カンパニーの工場で生産されている。

粋なファッションの参加者にも話を聞いてみた！

本多重成さん

クラシックなものが好きでヒッコリーゴルフを始めました。今日持参した皮革製のキャディバッグや小物類も自分で手縫いで作っています。同じ思いの仲間が集まる機会が少ないので、この大会は凄く刺激になりますね。



田中一則さん

普通のゴルフと比べて、ヒッコリーゴルフは使用クラブを自分で考える楽しみが大きいと思います。ヒッコリークラブには番手も明記されていませんから……。そして、ラウンド仲間と和やかにプレーできるところも魅力です。

